
ワカレサセヤ

J

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ワカレサセヤ

【Nコード】

N6733K

【作者名】

J

【あらすじ】

「別れさせ屋」と呼ばれる職業につく者の顛末

「愛してるわ。」

「俺もだよ。」

「昨日ちゃんと話したの。ようやく納得してくれたわ。」

「そう。大丈夫だった？」

「ええ。私も落ち着いて話せたし。あの人もやっと諦めてくれたみたい。」

「そうか。良かった。」

そう、良かった。これでやっと任務完了だ。同意書に判子を押すまでは、まだ気が抜けないが、今までの経験から、ここまでくればあとは時間の問題だ。気持ちは完全に俺に向いてるからな。

「別れさせ屋」という職業については、倫理的な問題から、様々なバッシングをくらっている。俺だってたまにそう思うことはある。人を騙して金を貰うわけだからな。

でも、需要があるから供給するビジネスが成り立つ。皆勝手な事を言うが、所詮自分では解決出来ない輩ばかりだ。自分のケツも自分で拭けないんだな。そして、面白いことに、依頼者の多くが、こういった倫理の問題を取り上げるような奴らばかりだ。

今回の依頼主の弁護士も、そうだ。自分で勝手に好きにさせておいて、自分じゃ別れられないんだから世話はない。まあ、「別れたくない」なんて言い張った演技力だけは認めるが。

まあ、そんな事はどうでも良い。別れさせて、金を貰う。俺の仕事はそれだけだ。

「ねえ、何考えてるの?」

「これからやっと二人の生活が始まると思ってさ。最初に堂々とどこに行こうかと思ってたんだよ。」

「そうね。でもまだ気が早いわ。次はあなたの番よ。」

「え?」

「私、うまく別れるために探偵を頼んだのよ。そのついでにあなたの事も調べさせてもらったわ。」

「なるほどね。。。」

「でも、大丈夫よ、安心して。あなたの彼女はもうすぐ別れるって言い出すわ。」

「今頃、『別れさせ屋』が最後の説得をしているところだから。」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6733k/>

ワカレサセヤ

2010年10月20日19時54分発行